

平成 26 年度

事業報告書

自 平成 26 年 4 月 1 日
至 平成 27 年 3 月 31 日

公益財団法人 八王子市学園都市文化ふれあい財団

I 平成 26 年度財団経営の総括

平成 24 年 4 月の公益財団法人への移行、及び同年 6 月制定・施行された「劇場・音楽堂等の活性化法」等を踏まえ、地域で芸術文化、地域コミュニティ振興を担う専門機関として、当財団が市施策と連動して果たすべき公益実現の使命と役割は大きくなっている。一方、財団を取り巻く経営環境は、指定管理料、補助金の削減や電気料金の大幅値上げにより厳しい状況になっている。

このような中、上記の使命及び役割を果たすため、財団の経営戦略の柱として策定した「中期経営計画（平成 25 年度～27 年度）」の 2 年次として、当年度は、同計画に掲げた各施策を着実に実施するとともに、当年度事業計画及び 26 年度経営方針に基づき鋭意取組んだ結果、事業の成果とともに財政収支改善においても大きな成果をあげることができた。

(1) 市の文化・地域振興施策と連動した公益の実現

① 芸術文化振興

- ・「八王子音楽祭 2014」は、商店街のイベント等ともタイアップするなどかつてない規模で開催され、多くの市民が参加するなど音楽によるまちの賑わいを創出し、まちの活性化に寄与した。※3
- ・東京交響楽団とのパートナーシップ事業を本格稼働させ、小・中学生を招いて実施したオーケストラワンダーランド、名曲コンサートや学校へのアウトリーチなど教育支援・音楽芸術の普及を図るとともに、東京交響楽団の指導を受け結成した市民合唱団とのコラボによる「ドイツレクイエム」コンサートを成功させ、市民参加による高い質の芸術鑑賞機会を提供した。※1、3 また、財団が育成している八王子ユースオーケストラと高雄ユース交流コンサートを開催し、国際交流を推進した。
- ・南大沢文化会館では、地域のニーズに対応し、大学との連携による子ども向けダンスワークショップや青少対との連携による音楽祭を初めて開催するとともに、財団制作のコミュニティオペラ「ラ・ボエーム」公演を、日本を代表する声楽家の指導の下、芸術団体・大学との協働、市民参加により実施し、好評を博した。※1、3
- ・夢美術館開催馬場のぼる展では、特別展の 1 日当たり来館者数が過去最高を記録し、当年度開催の全展覧会の 1 日当たり来館者数でも過去最高を記録するなど、「くらしの中の美術館」の定着が進んだ。※1

② コミュニティ振興

- ・八王子まつり及びフラワーフェスティバル由木の事務局を担い、伝統文化の継承、地域コミュニティ活動の活性化に寄与した。八王子まつりは過去最高の 77 万人の観客を迎えるなどまつりの成功に貢献した。※3
- ・前年度住民協議会との連携により市民センターに設置した、誰でも気軽に立ち寄れる「地域ふれあいサロン」を、当年度は 3 地区で開催し、前年度比約 2 倍の参加者を得るなど、地域コミュニティ活性化の取組を推進した。※1、3

③ スポーツ活動の促進

- ・財団主催第 3 回小学生陸上競技大会「はちおうじダッシュ！」を小学校校長会の全面的な協力を得て開催し、全小学校の 70 校のうち 55 校、300 名超の児童が参加するなど大会規模も大幅に拡大し、子どものスポーツ活動の促進を図った。※1、3

④ 学園都市づくり

- ・市から委託の事業いちょう塾が開学 10 周年を迎え同事業の定着・発展に貢献した。

(2) 専門的人材の養成・育成の取組の強化 ※2

- ・東京藝術大学等主催のアートマネジメント研修に3名参加したほか、財団企画講習会を開催し、マーケティング、音響技術習得などスキルの向上を図った。
- ・財団自主制作オペラ「ラ・ボエーム」に職員が積極的に携わり、制作進行、照明プラン、台本・譜面制作など専門的技術・知識を習得した。
- ・財団音楽アドバイザー（作曲家・ピアニスト）からの助言により各企画の充実化を図るとともに、自らの実演と曲目解説の公演を行うなど音楽芸術の普及、発信の取組を強化した。
- ・一方、中期経営計画に掲げるアートマネージャーの養成・配置については、全体のスキルアップは図られたものの、目標達成に至らず、課題を残すこととなった。

(3) 中期経営計画の着実な実施

- ・当年度は計画2年次として、中期経営計画の各施策ごとの26年度末達成目標と取組計画を策定し、同計画に基づき、上半期レビューなどの進行管理を含め鋭意取り組んだ結果、概ね目標を達成することができた。

(4) 収支の改善、安定的経営基盤の確立 ※4

- ・財政収支の改善の取組では、貸館施設全体の利用料金収入が3年連続で過去最高を更新したほか、新電力（PPS）導入による電気料の抑制、費用対効果の観点による事業の点検・見直し及び予算執行管理の徹底の結果、「事業活動収支差額」の当年度目標を大きく上回り達成した。

※1 中期経営計画（平成25年度～27年度）重点施策1

※2 中期経営計画（同上）重点施策2

※3 中期経営計画（同上）重点施策3

※4 中期経営計画（同上）重点施策5

【中期経営計画（平成25年度～27年度）重点施策】

1. 施設の特性・ポテンシャルを最大限発揮して芸術文化・地域コミュニティ振興を一層推進 ⇒ 質量ともに高い成果をあげる
2. 劇場法の理念を具現化するため、実演芸術の公演等の企画制作能力、事業遂行能力を高める ⇒ 芸術文化の専門集団に進化
3. 市民の自主的文化活動の支援、市民参加・市民協働を強力に推進、財団発信力の強化 ⇒ 市民からの幅広い支持・協力関係構築、認知度の拡大
4. 総合戦略会議を設置し、次期指定管理取得に向け体制を強化 ⇒ 次期指定管理取得
5. 安定的な経営基盤を確立 ⇒ 自立化を促進、体力をつける

Ⅱ 事業概要

1. 芸術文化の鑑賞、活動の普及・支援

(1) 実演芸術※

① 鑑賞機会の提供

ア. 著名なアーティスト等による質の高い実演芸術の鑑賞機会を市民に身近に提供した。

(ア) 芸術文化会館

「森麻季ソプラノリサイタル」「青島広志とおきの音楽祭」「仲道郁代ピアノリサイタル」「石田衣良&加羽沢美濃プレゼンツ 名曲モーツァルト」「宮本益光が贈るモーツァルトのオペラ」「柳家小三治一門会」「松竹大歌舞伎」「フォレスタコンサート」「清塚信也ピアノリサイタル」など著名なアーティストらが出演する公演を実施し、市民の多様なニーズに応えた。



フォレスタコンサート

(イ) 南大沢文化会館

市民の観客層の定着を図るため、ホールの特徴を活かし人気を博している「南大沢で JAZZ の名曲を」シリーズ公演などを継続実施したほか、「朴葵姫ギターリサイタル」「古今亭菊之丞独演会」を上演した。



クリスマスジャズ

イ. パートナーシップ協定を締結している東京交響楽団とともに、オーケストラコンサートを実施した。

(ア) オリンパスホール

若者に人気のゲーム音楽「ドラゴンクエストの世界」「名作映画オーケストラコンサート」「ドイツ・レクイエム」「フレッシュ名曲コンサート」を実施した。



ドイツ・レクイエム

※実演芸術

実演により表現される音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、演芸その他の芸術及び芸能の総称。(劇場・音楽堂等の活性化に関する法律 第2条)

② 市民参加型普及

ア. 芸術文化会館

「八王子音楽祭」を昨年度より拡充し実施し、多様な芸術文化を身近に体験できるワークショップなどその普及を図ったほか、通年で実施しているロビーコンサートの出演者による「ステップアップコンサート」や「はじめての茶道教室」など会館施設を活用した事業を実施した。また、東京交響楽団とのパートナーシップにより、楽団員が講師となり直接小中高大学生に指導する「ユース弦



ユース弦楽アンサンブル

楽アンサンブル」育成事業（ワークショップ）を実施したほか、多くの市民の合唱による「ドイツレクイエム」の合唱練習を数ヶ月に渡り実施し市民合唱団「クリンゲンコア」を結成した。

イ. 南大沢文化会館

南大沢地域のＦブロック青少年対策地区委員会と企画から協働し、「第１回青少年のための南大沢音楽祭」を開催したほか、プロの声楽家や演出家の指導により市民や学生が参加するワークショップを体系的に複数実施し、プロ・市民・学生・財団スタッフが協働して舞台制作を行い、その発表公演としてオペラ「ラ・ボエーム」を上演するなど、クラシック音楽の普及を図った。



オペラ「ラ・ボエーム」

ウ. オリナスホール八王子

ファミリー向けの「オーケストラワンダーランド」では指揮者体験や小学校吹奏楽バンドの東京交響楽団との共演などを実施した。

エ. 伝統文化ふれあい事業実行委員会

事務局を継続して担当し、車人形、説教節、篠笛等の体験講座やその発表会などを実施した。

オ. その他

八王子音楽祭は、街中の商業施設や商店街と連携し、イベントに音楽家を派遣するなど街中でのコンサートを多彩に実施した。

③ 鑑賞型普及

ア. 伝統文化の普及を図るため、「伝統 WA 感動 車人形の世界」や「能の世界へようこそ」を実施した。

イ. オーケストラやクラシック音楽の理解・普及を図るため、楽団員が自らトークをして演奏するコンサート「アフタヌーンコンサート～おもしろクラシックレシピ」や楽団員による小中学校でのアウトリーチ、平日昼間に気軽に上質な芸術文化を楽しめる「モーニングコンサート」を実施し、鑑賞を通じて質の高い本物の音楽の普及を図った。

ウ. 質の高い舞台芸術を提供する鑑賞事業をプロモーター等と共催して実施したほか、チケットの受託を行い、市民の利便性向上に努めた。

④ 公演等支援

ア. 市民が主催する多様な芸術文化事業への会場利用料の一部助成や、事業運営についての具体的なアドバイスなど人的支援を行い、市民の芸術文化活動の育成を図った。

イ. 第 64 回市民文化祭を八王子市民文化祭実行委員会及び八王子市と連携して開催し、情報提供、会場予約の調整、市民による芸術文化活動の発表の場を提供した。



八王子市民文化祭

⑤ 文化施設の管理・運営

管理の指定を受けている下記施設において、利用案内、施設貸出、利用料徴収等の業務及び施設や設備の保守管理業務など適正な管理運営に努めるとともに、利用者満足度の向上を図った。また、「ISO9001」の取得に向けた準備を行うとともに、「エコアクション 21」の認証登録を目指し取り組んだ。

ア. 芸術文化会館

入場者数 269,215 人 施設利用率 83.1%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 99.6% (大いに満足と満足の合計)

イ. 南大沢文化会館

入場者数 149,757 人 施設利用率 89.2%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 100% (大いに満足と満足の合計)

(2) 美術(夢美術館)

① 美術鑑賞

古代文明、現代日本画、絵本原画などの特別展を年間で 6 回開催した。

ア. 国内外で高い評価を受けている優れた美術作品等の紹介においては、「ペルシアのきらめき」「平山郁夫展 次世代へのメッセージ」「写真家が捉えた昭和のこども」を開催した。



平山郁夫展 次世代へのメッセージ

イ. 現代の息吹を感じ未来を指向する、学生や子供たちも楽しめる展覧会として、「11 ぴきのねこと馬場のぼるの世界展」「絵本原画展 きかんしゃトーマスとなかまたち」展を開催した。



絵本原画展 きかんしゃトーマスとなかまたち

ウ. 地域ゆかりで国内トップレベルの美術作品等の紹介においては、収蔵品展示を 5 回開催し、そのうち特集展示として、「銅版画家 清原啓子の宇宙」を開催し、作品集を刊行した。

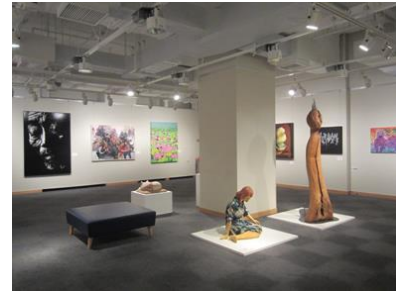
② 市民参加型普及

ア. プロの指導による子供たちを対象にした「11 ぴきのねこと馬場のぼるの世界展」に関連して猫にちなんだ造形教室を開催した。



11 ぴきのねこと馬場のぼるの世界展 造形教室

イ. 八王子市内在住、在勤、在学（出身）者を対象とした「市民公募 夢美エンナーレ」を開催した。



市民公募 夢美エンナーレ 入選作品展

ウ. 市内美術大学と提携し、市街で市民や学生が参加する展示やイベントを開催。多摩美術大学との共催で、音と美術をテーマにした「サウンドアート展」を南大沢文化会館の展示・多目的室で開催し、交流ホールでパフォーマンスイベントも行った。東京造形大学との共催では、地元商店街とも連携し、学生による「東京造形大学フラッグギャラリープロジェクト」を開催した。

③ 鑑賞型普及

ア. 第一線で活躍する研究者等によるギャラリートークや講演会を開催。「平山郁夫展 次世代へのメッセージ」では平山郁夫美術館長講演会と同館学芸員によるギャラリートークを行い、「写真家が捉えた昭和のこども」では小説家のねじめ正一氏を講師に招いたほか、収蔵品については当館学芸員がギャラリートークを行った。

イ. 市内美術館と提携し、スタンプラリーを開催した。

東京富士美術館、村内美術館と共同で「はちおうじ美術館めぐり SUN☆KAN ラリー」を開催したほか、美術連盟による市内画廊めぐりを共催した。

④ 管理・運営

夢美術館の指定管理者として、施設の維持管理を行うとともに年6回の特別展の企画・開催及び収蔵品の展示を行った。また、展覧会関連事業のイベントや市内大学、市内美術館との共催事業等を実施した。

開館日数 253 日 施設利用・事業参加者数 48,170 人（うち展覧会入場者数 38,810 人）
利用者満足度調査結果 総合的な満足度 98.8%（大いに満足と満足の合計）

2. コミュニティづくりに関する事業

(1) コミュニティづくりの推進

ふれあいのあるまちづくりの推進及び地域住民の交流促進を図るとともに、地域コミュニティの一層の活性化を図るため、次の事業を実施した。

① コミュニティの活性化

地域住民協議会との協働により、地域住民を対象に誰もが気軽に参加できる講座を各市民センターで開催し、地域住民の交流の場づくりを行い、地域コミュニティの一層の活性化を図った。



ストレッチ健康体操教室

② 住民協議会との連携・支援

地域住民協議会の活動をPRするため、市民センターで実施している「つるし雛まつり」を八王子駅南口総合事務所で開催した。



つるし雛まつり

③ コミュニティ用具の貸出し

コミュニティ活動に供するため、各地域住民協議会をはじめとする各種団体に用具の貸出しを行った。

④ 地区図書室の運営

地域住民の交流を図るため、地区図書室を運営し「図書の貸出し」や「読み聞かせ」、「古本市」等の行事を行った。また、地区図書室運営部員を対象に、中央図書館との共催による研修を行った。

(2) コミュニティ活動の支援

地域住民協議会の活動の支援や八王子まつり及びフラワーフェスティバル由木並びに八王子いちよう祭り等の開催経費の一部を助成し、地域コミュニティの活性化への支援を行った。

① 地域住民協議会への助成事業

コミュニティづくりの中心的推進団体である 17 地域住民協議会に対し、運営費をはじめ、広報紙の発行費用、地域住民のニーズに応じて開催される「地域ふれあい講座」の開催経費の一部を助成・支援した。



広報紙「やまゆり」

② まつりへの助成事業

「八王子まつり」、「フラワーフェスティバル由木」の開催経費の一部を助成し、事務局を担当した。

このほか、市民手づくりの祭りである「八王子いちよう祭り」の開催経費の一部を助成し、事務局運営の補助を行い、併せて「踊れ西八夏まつり」の開催経費の一部を助成し、活動を支援した。



八王子まつり

(3) コミュニティ施設の管理運営

市民センター18館及び地区会館14館の指定管理者として、利用案内、施設貸出及び利用料徴収等の業務、施設や設備の保守管理業務を行うとともに、利用者満足度の向上を図った。

また、市民センター内に一人でも気軽に立ち寄れる「地域ふれあいサロン」を開設し、地域コミュニティの推進を図った。

利用者数 1,513,445人 施設利用率 60.6% ※区分利用率

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 98.8% (大いに満足と満足の合計)

※市民センターの区分利用率は午前・午後(A・B)・夜間(A・B)

それぞれの利用区分数の合計を利用可能区分数で除した率

3. スポーツ活動と公園利用の促進及び公園・運動施設の管理運営に関する事業

(1) スポーツ活動の促進

市民のスポーツ活動の促進を図るため、それぞれのライフステージに応じた18のスポーツ事業を実施し、スポーツ活動の促進に努めた。特に、「はちおうじダッシュ! (小学生対象短距離競技会)」は300人を超える参加者でにぎわったほか、「ジョギング教室」は大人から子どもまで109名にのぼる参加があった。また年間で複数回を定期的実施する事業として「ジュニアジョギングスクール(24回)」を継続実施するなど幅広くスポーツの場を提供することができた。



はちおうじダッシュ!

(2) 公園利用の促進

今年度生物多様性の保全や活用を目指し、新たに野鳥調査及び植物調査を開始した。また公園の魅力を活かした四季折々の自然鑑賞教室や新規事業生花教室をはじめとする9の公園事業を実施し、利用の促進に努めた。そのほか青少年対策地区委員会への協力や、地域アドプト団体との協働による美化活動、小学校とのコラボレーションによる樹木プレート制作などを行い、地域連携に支えられた公園マネジメントを展開した。



小学生による樹木プレート制作

(3) 公園・運動施設の管理運営

運動施設を含む上柚木公園の指定管理者として、使用受付・貸出及び利用案内、使用料収納事務等の運営業務を行った。また、法定点検をはじめ、高品質なスポーツターフ管理等の運動施設管理業務、安全安心の遊具管理等の公園施設管理業務を行った。

運動施設利用人数 314,380人 施設利用率 84.9%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 94.6% (大いに満足と満足の合計)

4. 学園都市づくりに関する事業

(1) 大学コンソーシアム八王子

「大学コンソーシアム八王子」の構成団体として経費を一部負担するほか、八王子市と連携し事務局を担当した。

(2) 学園都市センターの管理運営

学園都市センターの指定管理者として、利用案内、施設貸出及び利用料徴収等の業務をはじめ、施設や設備の保守管理業務及び修繕を行った。

入場者数 179,530 人 施設利用率 89.8%
利用者満足度調査結果 総合的な満足度 98.8% (大いに満足と満足の合計)

5. 財団情報紙「ラ♪ラ♪ラ」等による情報提供に関する事業

芸術文化公演を始めとする各種催物等の情報や、財団が管理運営する施設の利用案内を情報紙、インターネット等の媒体を通じて市民に提供した。

また、芸術文化会館（いちょうホール）・南大沢文化会館・学園都市センターでは、施設のインターネット予約・検索サービスや、ホームページでイベント情報を提供した。

6. 市からの受託事業

(1) 彫刻の維持管理

彫刻のまちづくり事業により市内に設置された 104 点の彫刻を周知することを目的とした「第 5 回わがまち八王子の彫刻写真コンクール」を実施し入賞作品は 2 月の 1 か月間いちょうホールロビーに展示した。(応募 53 名 164 点)。



推薦受賞作品「サン ピラー」

真次 弘 氏撮影

(2) 学園都市大学（いちょう塾）運営

八王子学園都市大学の講座の設定・管理、受講生の募集・受付・管理及び大学等講座提供機関との連絡・調整等の運営業務を行った。

年間講座数 284 講座 受講生 6,087 名

7. 法人管理

(1) 財政収支改善、新規自主財源の開拓

財団の厳しい財務環境改善を図るため、利用料金等収入確保の取組みに鋭意努めるとともに、サービスの水準は維持しつつ、固定費以外の全ての支出について、契約方法及び執行方法を見直すなど収支改善に努めた。

また、11 施設（芸術文化会館、上柚木公園、市民センター9 館）において、新電力（PPS）による電気供給を導入し、電気料金削減による支出抑制を図った。

(2) 事務事業の改善、効率化の推進、コンプライアンスの徹底

中期経営計画（25 年度～27 年度）に基づき、各所管において課別経営計画により事務事業の改善、効率化を推進する取組みを進めた。

また ISO9001 認証・取得に向け、6 月にキックオフ宣言を行った。それにともない、関連法規、文書・既存マニュアル等を見直し、「品質マネジメントシステム運用管理マニュアル」を作成した。

(3) 人材育成

研修計画に基づき各種研修を実施したほか、プロ意識とホスピタリティー向上のため、外部講師を招聘し「顧客満足度研修」を実施、サービス介助士 2 級所得者に対し「サービス介助士 2 級フォローアップ研修」等を実施し、人材育成に努めた。